

へきじゃ 辟邪の埴輪

古墳のなかには、墳丘に様々な埴輪を樹立したのが見られます。ヤマト政権が、定型化した前方後円墳の一部として採用され、最初期の箸墓古墳では特殊器台・特殊壺形埴輪が使われています。特殊器台・特殊壺形埴輪の流れを汲んで、円筒埴輪・朝顔形埴輪が生まれ、続いて家の形を模した家形埴輪が作られます。ただ、形象埴輪も古墳時代前期と中期では、その形を模する対象物が変化します。

4世紀中頃には武具・武器、鳥・水鳥を模した形象埴輪が生まれますが、馬は5世紀前半、その後に人物埴輪が生まれます。

5世紀の前半までの土器は野焼きでした。5世紀前半に朝鮮半島から須恵器と呼ばれる焼き物が日本にもたらされます。須恵器はこれまでの野焼きで焼かれた土師器とは違って、1,000℃以上の温度で焼かれた硬質なもので、それを焼くための窯が造られます。



巫女形埴輪（塩谷古墳群）

埴輪も5世紀中頃以降には、この須恵器の窯で焼かれるようになります。窯で焼かれた埴輪はそれまでの野焼きで焼かれた埴輪に比べて硬質です。野焼きのものは、黒斑と呼んでいる黒色をした大きな斑点がありますが、窯で焼かれたものにはなく、野焼きか窯で焼いたものかが識別できます。

5世紀中頃以降に武人・巫女などの人物を模した埴輪がつくられますが、亀岡市時塚1号墳では盾と人物を合体させた

ような、おもしろい形状の盾持ち
人形埴輪ひとがたが出土しました。この古
墳は一辺約 25 m の方墳で、造り
出しと呼ばれる前方部を矮小化し
たような施設をもっています。出
土遺物から 5 世紀の後半に造られ
たものと見られます。

この古墳の本来の主である人物
の埋葬施設は削平られて、失われ
ていましたが、造り出しに 1 基の
埋葬施設が残っていました。この
造り出しに埋葬された人は、古墳
の中心に埋葬された人の家臣的な
人物の墓と見られますが、鉄製の
武器や馬具が納められており、武
人的な人物と見られます。

盾持ち人形埴輪は古墳の周溝内から出土しました。この埴輪は、
盾形埴輪の上段が人面にかたどられた特殊なもので、頭部には耳や
角状の装飾があります。また、目の周りには刺青いれずみもしくは隈取りくまどと
見られる装飾が施され、全体としておどろおどろしい表情をしています。鼻は失われていますが、これは埴輪を焼いている窯の中では
じけて失われた可能性が高いものと見られます。また、唇や眉の部分も立体的に作られています。この埴輪はもともと、邪悪なものを
はね返すための防具である「盾」と、邪悪なものをにらむおどろおどろしい「顔」が一体化したものと見られており、古墳の主を脅かす
邪悪なものを退けるためにつくられたものと思われま

この埴輪は、長い間、古墳の主を守るために古墳に立ち続けていたものと見られます。
(石崎善久)



盾をもち、顔に刺青を入れた埴輪（時塚 1 号墳）